

# 2023年の土砂災害を 受けて考える地域未来のこと

田主丸未来創造会議 副会長

吉弘辰一



- ▶ **すぐそばにある里山と仲よく里地の人たちが暮らし続けていく為に私たちが考え始めたこと。**
- ▶ **地域の自然災害の歴史をまなび直して今を見つめ直す。**
- ▶ **気にして無かった自然からの豊かさの恵と寄り添う穏やかな心を持ちながら自然の営みの波を理解しあい、伝統的な行事から自然の波と向き合い自然のリスクを知る。**
- ▶ **災害はまたやってくる事を知り、自分事として備える事。**

以上の三点に共通なことは、知るためには対話を活かす地域コミュニケーションを大事にして行くこと。

昭和までは当たり前にあった地域力を見なおしても良いかも。

活動初期の会議のようす。

★地域資源のたな卸し作業会議。

★プラットフォームを支える人財

田主丸・未来創造会議にて課題をいかに解決するか話し合う



田主丸・未来創造会議 意見交換会



写真・文章ともに氏名・肩書きは主な発言者のものです。  
なお、所属および肩書は2021年11月時点のものです。  
他にも委員や多くのオブザーバーにご参加いただきました。

福岡苗木研究会  
藤原 圭さん

田主丸未来創造会議  
アドバイザー  
筒井 博文  
(ご当地新聞くまのすけ(ふるさと人))

田主丸未来創造会議  
会長 佐藤 千澄さん  
(ちやま)

田主丸未来創造会議  
副会長 吉弘 辰さん

田主丸未来創造会議  
委員 大熊 博文さん

久留米経済リーディングス協議会  
会長 石橋 千恵子さん(右)  
会員 高山 裕子さん(左)



# 足元の地域資源を見直す必要がある

久留米耳納グリーンツーリズム協議会

会長 石橋千恵子さん▼ 会員 高山裕子さん▼



「今は核家族が多く、親が忙しいからと一人で食事をしていたり朝食を食べない若者が多いです。農泊することで田舎の大家族の良さ、地元で穫れたものを食べることがどんなに美味しく大切なことなのかを少しでも気づいてほしいと思います。現代は、自分の事が忙しい、自分の事以外は気にしない、地域の行事も面倒だという個人主義の人が多くなっています。食は身体にも精神にも作用します。心をつくれれば、神事伝統行事に限らず大事な物は大事にできるようになるのではないかと思います。田主丸が、忙しい現代の中の癒やされる場、ホッとする場となったらいいなと思います」

**忙しい日常が忘れていた魅力**

グリーンツーリズム協議会がこれまで受け入れた農泊は、市外からの修学旅行、海外からの研修旅行などです。

「私達は普段気にも留めていないお地蔵様や道祖神について、コレ何？と尋ねられ、調べると、自分も知らなかった歴史に気づいたりします。私達にとっては日常的なことでも、外から来る人には感動するようなこともあり、自分達が住んでいる所ってすごい所なんだ！と発見できるのが面白いんです。地域の人にも知ってもらいたい」



まさか目の前の裏山が！

なにが起きたのかが分からないままにそれは始まった。

# 7月10日豪雨災害の朝は

その日は**ゴーン**という音から始まった



▲田主丸町以真恵付近上空  
(国土交通省 九州地方整備局 提供)

▼竹野土砂災害上空  
(国土交通省 九州地方整備局 提供)



それは**ゴーン**という  
音から始まった  
**豪雨災害・その日**  
(2023年7月10日~11日)

# 災害時の航空写真と赤色立体図



▲災害時の竹野地区「航空写真(左)」と「赤色立体地図©アジア航測株式会社」



# まさかの災害を受けて災害に強い山づくりを加速化する！

混乱の中でも今しかできない災害当事者たちの体験談を未来の地域社会に係わる人たちに残す方法は対話の機会をつくるしかないとの意見が一致する。

それは、まさしく未来を創造する会議体としてのプラットフォームのあるべき姿だと……。

- 1 1月に災害地の場であることが一番効果的だと一致。

筑後地区には各地域に多くの里山が存在しています。町や地域、あるいは個人で管理する山も少なくはありません。そんな山を持つ地域の一つ、久留米市田主丸町は、今年七月に甚大な豪雨災害の被害に遭いました。

地元の方々は、自然、山がもたらす影響を目の当たりにしながら何を大事にしていくべきか、様々なことを考え備えようとしています。

それは私達皆、決して人ごとではありません。

今回はそんな田主丸町の取り組みを見ながら、私達は地域の里山とどう向き合い暮らしていくかを考えてみましょう。



▲西山浩司先生



▲吉岡秀蔵氏



▲吉弘辰一議長



▲田中徹代表

## ■YouTubeでシンポジウム完全公開!

### [第1部]

- ・耳納連山の災害発生状況  
(アジア航測株式会社)
- ・基調講演  
(九州大学大学院 西山浩司助教)

### [第2部]

- ・今回災害に関してパネリストコメント  
西山助教、吉岡秀蔵氏 (三明寺区)  
吉弘辰一氏 (田主丸財産区議会議長)  
田中徹氏 (株式会社Bwagon代表)

### ・語り合いの場

地元の方々がグループに分かれて語り合う

※紹介相談コーナー(アジア航測・浮羽森林組合)も併設

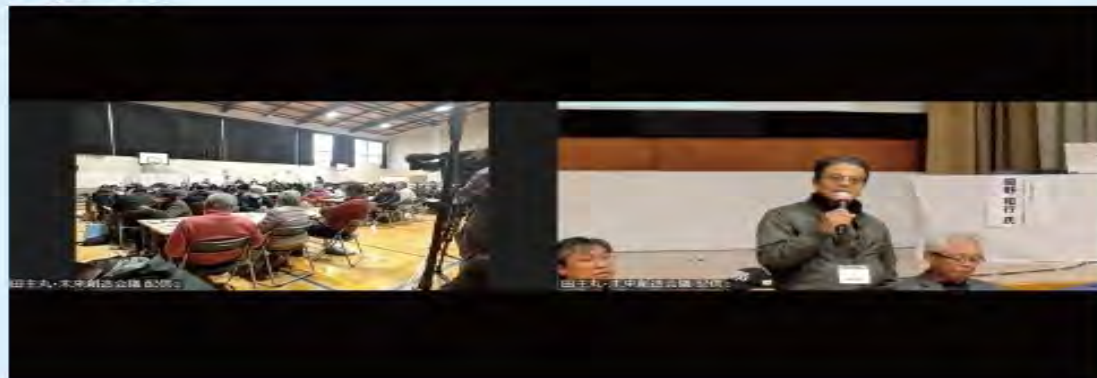
「田主丸災害復興シンポジウム」  
YouTube動画の案内▼



### ▼[第1部]



### ▼[第2部]



# 里山の今と昔は変わらない姿。

## 享保5年（1720）土石流（久留米市竹野校区）

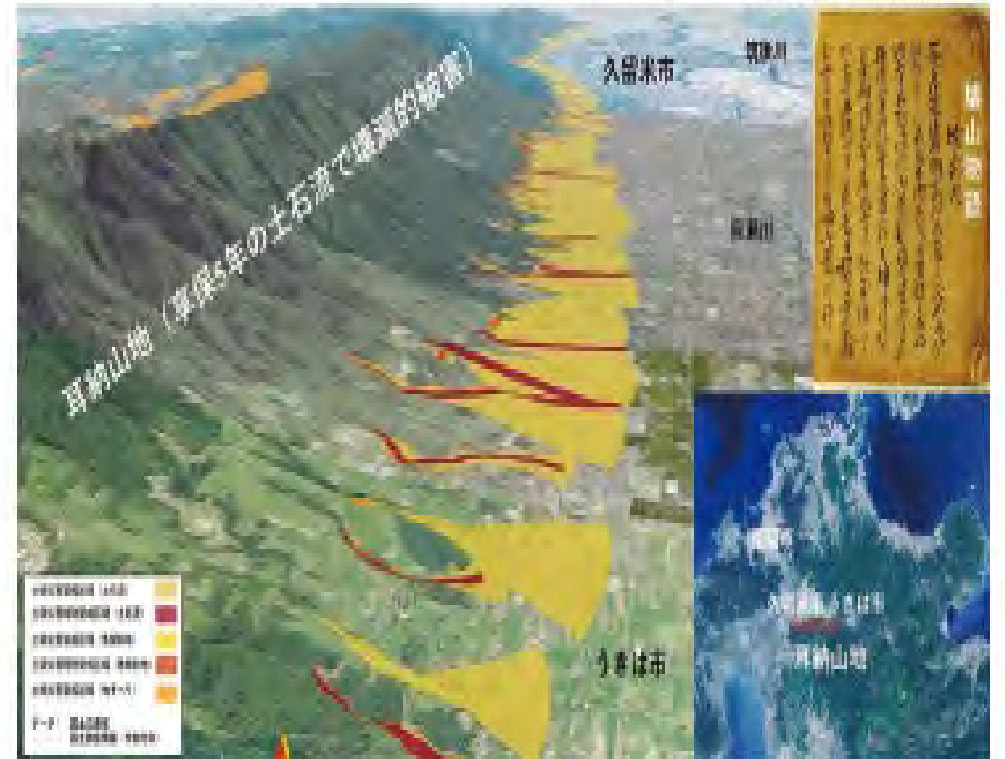


国土地理院ハザードマップポータルサイトの「重ねるハザードマップ」で作成した図に地域情報を追加 背景写真： 国土地理院 全国最新写真（シームレス）：平成28年12月21日

この地図は、九州大学西山浩司先生のホームページ「災害伝承から防災へ 享保5年7月九州北部豪雨」から引用しています。  
[https://www7.civil.kyushu-u.ac.jp/suiken/mino\\_disaster/index.html](https://www7.civil.kyushu-u.ac.jp/suiken/mino_disaster/index.html)

## 東側から見た耳納山地と土砂災害警戒区域（土石流）

史料：「里山物語」、西見孝文書  
 九州大学文学部蔵書資料館蔵書



国土地理院ハザードマップポータルサイト「重ねるハザードマップ」で作成した図に地域情報を追加 背景写真： 国土地理院 全国最新写真（シームレス）：平成28年12月21日



# それぞれに議論が進む



付箋の意見をまとめて総括を



## 災害が起きてから

この四ヶ月、どういうことを  
考えてきたか

「畑」「山林」「人は弱い」「山は怖い」「ボランティア」「自然には逆らえない」「自分の身は自分で守らないと」「砂防ダムの必要性」「何ができるか」「山を守る」「災害減る」といった言葉が付箋で綴られています。

ディスプレインでは、「山は絶対壊れない」と思っていたのに……」「今まで、間伐した木は持ち出すことなく切り捨てていたが、それが今回流れてきた」「地面に強い木、広葉樹を植えた方がいいのでは」「集落で撤去する機械を出し、一週間かかってやっと道が通れるようになった」「夜中に避難命令が出ても誰も避難できない。夕方までに教えてもらいたい」「河川が狭いので河川改修をしてほしい」「どうしなればいけないのか、情報の共有」といった声がありました。

## 被災への思い 『備える』に向けて

シンポジウム第二部は、パネルディスカッションという形で様々な立場の専門家に地元の人々を交え、どのように耳納山と関わっていくかを考え議論し合います。

パネリストは、西山助教、三明寺地区の吉岡さん、田主丸財産区議会の吉弘議長、地域活性化プロジェクトに関わってきた株式会社ビーワゴンの田中徹代表の四名。

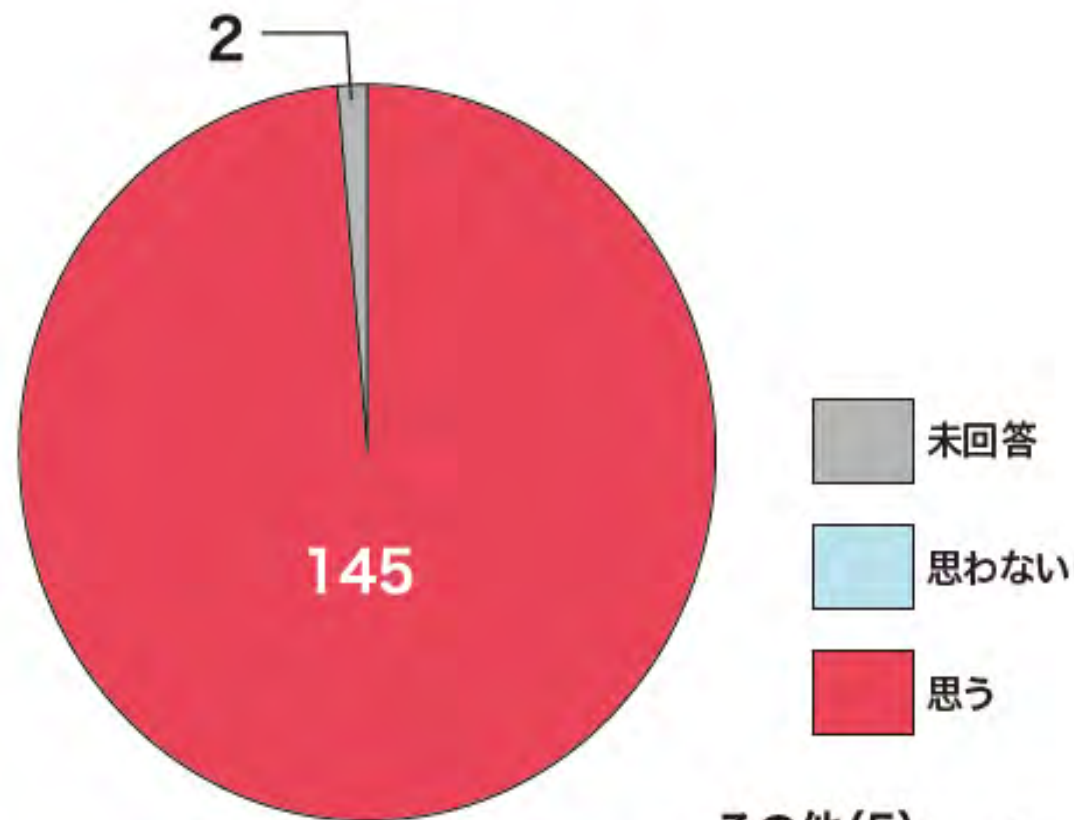
西山助教は「備える」がキーワードだと述べ、吉弘さんは「西山先生の三百年前の話、吉岡さんの倒木が流れてきた話、そして私の話はつながっています」と話します。

「大事なものは忘れてしまわないこと。復興で難しいところは『続ける』ということですよ」と話す田中さんが、住民を交えたパネルディスカッションを進行しました。

▼付箋に書き込まれた数多くの思い



## ■今回の災害を次世代に 伝えていきたいですか？(147名の回答)

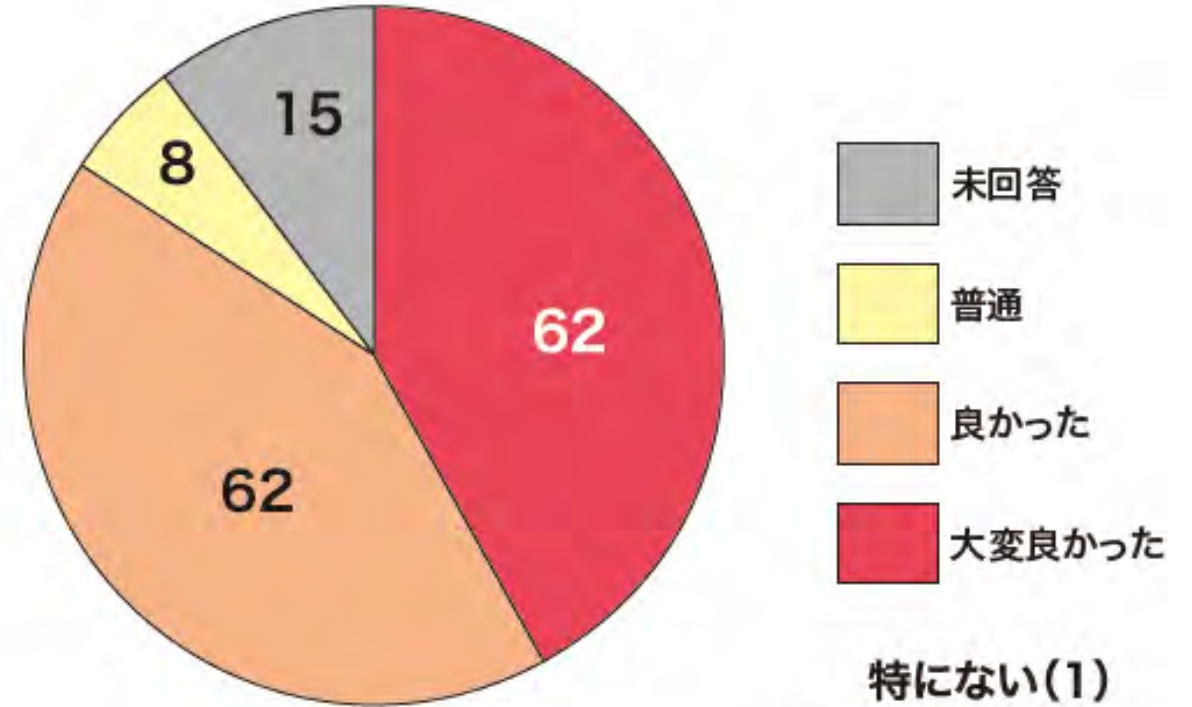


## ■どんな形で伝えていきたいですか？(複数回答可)





## ■シンポジウムはいかがでしたか(147名の回答)



## ■何が印象に残りましたか(複数回答可)



## 🔊 対話から生まれて来たこと。

- ▶ まさか、災害が起きるとは.....。
- ▶ 知らない事が多すぎた。
- ▶ 災害はまた起きる事を家族で真剣に考えたい。
- ▶ 話し合う事が大事なことだと実感した。
- ▶ 身近い自然に向き合うことが少なくなっていた。
- ▶ 地域の300年前の災害の歴史を初めて知った。
- ▶ 大事な事は忘れてしまわないために何かをする。
- ▶ こんな話し合いがもっと広がってほしい。

ご清聴ありがとうございました。

田主丸未来創造会議副会長

吉弘辰一

2025, 2. 14